

## 執筆要項

### 1. 原稿の提出方法

本誌は電子投稿を基本としています。以下の要領に従って電子ファイルを作成し、本誌ホームページの投稿フォーム(新規論文投稿は[https://jjnhs.com/form\\_post](https://jjnhs.com/form_post)、再投稿は[https://jjnhs.com/form\\_repost](https://jjnhs.com/form_repost))より提出してください。

### 2. 提出原稿の内容

#### 1) ファイルの構成

本文、図表、図表タイトルを、それぞれ個別のファイルとして用意してください。図表は1ファイルにつき1枚とします。ファイル名には、著者の姓と名前の頭文字を付け、次のようにしてください。(例)大分太郎氏の原稿の場合

本文: OTscript

図1: OTfig1

表1: OTtab1

表2: OTtab2

図表タイトル: OTcap

#### 2) 各ファイルの内容

各ファイルは、以下の内容を含むものとします。

本文: 投稿区分、論文タイトル(和文・英文)、要旨(下記参照)、キーワード(下記参照)、ランニングタイトル(下記参照)、論文本文、引用文献、注記

図表: 「3. 原稿執筆上の注意点」の6)に記載

図表タイトル: すべての図表のタイトル

#### 3) 要旨

原著、総説、研究報告、資料については、英文250語以内、和文原稿の場合には、さらに和文400字以内の要旨もつけてください。

#### 4) キーワード、ランニングタイトル

すべての原稿に英文キーワードを6語以内でつけてください。和文原稿には、日本語キーワードも6語以内でつけてください。また、論文の内容を簡潔に表すランニングタイトルを、英文原稿では英語8語以内、和文原稿では日本語15文字以内でつけてください。

### 3. 原稿執筆上の注意点

#### 1) ファイル形式

本文はMicrosoft Wordで作成してください。

図表に関しては以下のファイル形式を受け付けます。

Microsoft Excel, Microsoft PowerPoint,  
Microsoft Word, Adobe Photoshop, Adobe  
Illustrator, EPS, TIFF, JPEG, PDF

#### 2) 書体

ひらがな、カタカナ、漢字、句読点と本文(和文)中の括弧は全角で、それ以外(数字、アルファベット、記号)は半角にしてください。数字にはアラビア数字(123...)を使用してください。

全角文字については、太字および斜体は使用しないでください。また、本文・図表とも、下記のような全角特殊文字の使用は避けてください。

(例) ① VII ix © ★ ※ “ No. m<sup>2</sup> kg ㄣ (株) 匍 ☞

#### 3) 句読点

本文中では、「、」と「。」に統一してください。句読点以外の「。」、「,」,「:」,「;」などは、すべて半角にしてください。

#### 4) 章・節番号

章・節につける番号は、1. 2. …、1. 1 1. 2 …としてください。ただし、4桁以上の番号の使用は控えてください。

(例) 2. 研究方法

2. 1 看護職に対する意識調査

2. 1. 1 調査対象

#### 5) 書式

本文の作成にはA4判用紙を使用し、余白は上下・左右各30.0 mm、1ページあたり37行40文字を目安にしてください。適宜、改行を用いてもかまいません。本文には、通しのページ番号を入れてください。

#### 6) 図表

図や表のファイルには、図表番号およびタイトルを記載してください。その際、図表番号およびタイトルが図の外周の中に入らないよう配置にご注意ください。また、図と、図表番号およびタイトルをグループ化したり、グループ化したものを画像としてファイルに貼り付けたりしないようにしてください。

図表内の文字はTimes New Roman、Arial、MS P明朝、MS Pゴシックのいずれかのフォントを使用してください。その際、「和文: MS P明朝、英数字: Times New Roman」か「和文: MS Pゴシック、英数字: Arial」のどちらかの組み合わせで作図、作表するようお願いいたします。

大きさや数の設定はいたしません。ただし、製版時に縮小されますので、全体が最大A4サイズ1ページにおさまるようフォントサイズにご留意ください。1ページを超える図表になる場合は、編集事務局にご相談ください。

#### 7) 引用文献

本文及び図表で引用した文献は、本文の後に日本語・外国語のものを分けず、筆頭著者姓のアルファベット順に番号をふらさないで記載してください。ただし、同一筆頭著者の複数の文献は、発行年順にしてください。著者が20名よりも多い場合は最初の20名のみ記載し、それ以外「他」[「et al.」]として省略してください。雑誌名に公式な略名がある場合でも、略さずご記載ください。なお、特殊な報告書、投稿中の原稿、私信などで一般的に入手不可能な資料は文献としての引用を避けてください。原則として、引用する文献は既に刊行されているもの、あるいは掲載が確定し印刷中のものに限りです。

正確を期すため、DOIがある場合にはつけてください。

(例: 雑誌の場合)

江崎一子, 神宮政男, 古田栄一, 橋本通, 和田哲也, 塩川左斗志, 川畑仁人, 瀬戸口京吾, 宮崎吉孝, 澤部俊之, Torsten Hoger, 恒川伸二, 中村教泰, 三崎義堅, 山本一彦. (1996). 早期リウマチ診断における抗ガラクトース欠損IgG抗体測定の臨床的意義. 基礎と臨床, 30(12), 3599-3606.

Yamaguchi, S., & Yatsushiro, R. (2019). Significance and potential of self-management research for HTLV-1 associated myelopathy: review of self-management for people with multiple sclerosis. *Journal of Rural Medicine*, 14(1), 7-25. <https://doi.org/10.2185/jrm.2996>

Kawamura, N., Niiyama, M., & Niiyama, H. (2009). Animal-assisted activity: experiences of institutionalized Japanese older adults. *Journal of psychosocial nursing and mental health services*, 47(1), 41-47. <https://doi.org/10.3928/02793695-20090101-08>

Murashima, S., Nagata, S., Magilvy, J. K., Fukui, S., & Kayama, M. (2002). Home care nursing in Japan: a challenge for providing good care at home. *Public health nursing*, 19(2), 94-103. <https://doi.org/10.1046/j.1525-1446.2002.19204.x>

(例: 書籍の場合)

高木廣文. (2002). 生活習慣尺度の因子構造と同等性の検討. 柳井晴夫他(編), 多変量解析実例ハンドブック(pp. 95-110). 朝倉書店.

Emerson, G. (1976). *Winners and losers: Battles, retreats, gains, and ruins from the Vietnam War*. Random house.

O'Neil, J.M., & Egan, J. (1992). Men's and Women's gender role journeys: Metaphor for healing, transition, and transformation. In B. R. Wainrib (Ed.), *Gender issues across the life cycle* (pp. 107-123). Springer.

(例: 電子ジャーナル等の場合)

太田勝正. (1999). 看護情報学における看護ミニマムデータセットについて. *大分看護科学研究*. 1, 6-10. [https://doi.org/10.20705/jonhs.1.1\\_6](https://doi.org/10.20705/jonhs.1.1_6)

(例: オンライン辞書の項目)

Merriam-Webster. (n.d.). Semantics. In Merriam-Webster.com dictionary. Retrieved February 2, 2023, from <https://www.merriam-webster.com/dictionary/semantics>

(例: 内容が変化するウェブページ)

環境省. (n.d.). 大気汚染に係る環境基準. <https://www.env.go.jp/kijun/taiki.html> (検索日: 2023年2月2日)

※電子ジャーナル等インターネット上のリソースは、掲載されているURL及び最終閲覧日を記載してください。また、発表年が不明の場合は、n.d.と記載してください。

本文中では、引用文の最後に(前田, 2021) または(Maeda, 2021) のように記載します。ただし、一つの段落で同じ文献が続いて引用されている場合は不要です。また、「前田(2021) は・・・」や「Maeda (2021) was...」のよう

に著者姓を本文の要素として記載することも可能です。和文献で著者が2名以上の場合は(筆頭著者姓他, 出版年) もしくは、筆頭著者姓他. (出版年) とします。洋文献で共著者が2名の場合は、(Maeda & Yatsushiro, 2021)、または Maeda and Yatsushiro (2021) のように記載します。洋文献で共著者が3名以上の場合は(Maeda et al., 2021)、または Maeda et al. (2021) のように記載します。同一著者の複数の文献が同一年にある場合は、(前田 2021a)、(前田 2021b) として区別します。2つ以上の論文を同一箇所 で引用する場合はセミコロンで区切り、アルファベット順に並べてください。

(例) 食事中の塩分や脂肪は、大腸がんのリスクファクターのひとつであると考えられている(Adamson and Robe, 1998a; O'Keefe et al., 2007)。

その他の引用フォーマットについてはPublication Manual of the American Psychological Association 7th ed. を参照してください。図表を転載する場合は、図表のタイトルの後に(前田, 2021) のように記載し、当該図表の注に出典情報を明示するとともに引用文献リストに記載してください。ただし、あらかじめ著作権者に転載の許可を得てください。

(2023年6月12日改定)